

1. 授業の基本情報

本授業は、小学校教員免許必修科目である。初等教育コースの学生（2回生以上）を対象にした授業であり、今年度の受講生は182名であった。

本授業では道徳教育の歴史的経緯や理論的内容の理解だけでなく、実際の小中学校現場で実践されている取組や授業を多く紹介して、子どもたちに道徳性の発達や道徳的実践力の育成を図るためにどのような指導方法やカリキュラムが効果的であるかを実践的に学べるように配慮して組み立てている。これは、平成29年改訂の学習指導要領から「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」となり、教科化されることによって、考え議論する道徳への質的転換が求められている中、教員を目指す学生に必要な知識と技術を身に付けてもらうためである。

実際の授業では、前半に道徳教育の学習指導要領上の位置付けや歴史的変遷、道徳教育に関する理論や方法を紹介した。また、道徳の授業で扱う22の道徳的価値（内容項目）について、多角的な視点から物事を見て視野を広げること、且つ自分なりの定義や考えを持つことができるように学生同士の議論や話し合いを繰り返して行った。中盤には、実地指導講師として愛媛県内で長年、道徳教育に携わってきた小中学校長及び園長を招き、愛媛県で先進的に行われている道徳教育の取組について紹介していただくとともに、道徳の授業を行う上で大切な視点や考え方、指導上の留意点や指導技術などを講義いただいた。

以上の講義を受けた後、後半には学びを活かして学習指導案を作成し、模擬授業や授業案説明を行うことを通して、より実践的に学び合えるようにした。

2. 授業評価・授業研究の内容

① 授業評価について

講義の最後に DP との対応関係の調査を行った。アナウンスとアンケートを実施する時間が十分ではなかったため、受講生のうち55名の

回答となったが、その結果を(表1~4)に示す。

(表1) DP との対応関係のアンケート結果

知識・理解 ：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。	
とてもそう思う	39人
ある程度そう思う	16人
あまりそう思わない	0人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

(表2) DP との対応関係のアンケート結果

技能 ：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。	
とてもそう思う	34人
ある程度そう思う	20人
あまりそう思わない	1人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

(表3) DP との対応関係のアンケート結果

思考・判断・表現 ：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	
とてもそう思う	31人
ある程度そう思う	23人
あまりそう思わない	1人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

(表4) DP との対応関係のアンケート結果

興味・関心・意欲、態度 ：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。	
とてもそう思う	37人
ある程度そう思う	17人
あまりそう思わない	1人
授業の内容・目標がこの DP とは無関係である	0人

このアンケート結果からも分かるように、どの項目においても、学生にとって身に付くことの多かった授業であったことが分かる。多角的で多様な授業内容、特に実践的で学校現場の様子が知れ、学生自身が学校現場で子どもと関わり指導する際に活かせるような内容であったためであると考えられる。このことは、同じアンケート調査において記述式で回答する質問「この授業を通して、教員になる上で、どのようなスキルが身につくと思いますか。」に対して、「道徳科の細かな指導法を何通りも学ぶことで、現場で実際に子どもにアプローチしていく際の手法を知り、実際に使うことを想定すると自分はどのように授業展開していくかということを考えられる。」「教科としての道徳を教えていく方法が身につく。自己の道徳的価値観について改める機会になる。」「特別の教科 道徳の授業の内容やあり方について考えることを通して、実習や現場に立ったときに、学んだことを生かして授業をつくることができるようになる」と考えた回答が多数得られたことから推察される。

また、(表2)～(表4)において「あまりそう思わない」と回答した学生は、すべて同じ学生である。この学生は、毎回の授業を常に真剣に受けており、毎時間の最後に書く振り返り(リフレクション)を見ても、講義内容を十分に理解し、自分の中でよりよい道徳の授業とはどうあるべきかについて悩んだり、考えたりすることができる「学びとる意識の高い」学生であった。この学生が上記に示した記述式回答の質問に対して、「道徳は一般的に綺麗事と言われていることを扱う科目なので、そこについて自分自身を振り返ることで傷をえぐられるような気持ちになるが、教授(原文ママ)の温かいリフレクションとともに学習を重ねることで少しだけ自分がタフになる部分があると思う。」と回答していることから、授業そのものに対して不満が大きかったというよりは、自分の中で判断基準や到達点を高く設定しているために出した回答であることが分かる。

②授業研究の内容について

実践的な授業内容を意識して取り組んだ点について、以下に紹介する。

一点目は、現在学校現場で実践されている授業をできるだけ多く見せたことである。授業者が小中学校教員であった経験を生かし、

実際の資料を使って模擬授業を二度行った。本授業を受ける学生は多くが2回生で、教育実習を経験しておらず、道徳の授業がどのような流れで行われているか、知らない者が多い。そのような状態で指導のポイントや留意点、理論的な内容を伝えても、十分に理解することは難しい。そこで授業者が模擬授業を行い、目の前で実践して見せることで具体的なイメージがつかめるようにした。二度行った模擬授業のうち、一度は授業者自身が作成した自作資料を用いた授業を行った。道徳の授業においても、ねらいに応じた教材を作成する意義や大切さを伝えることができた。これ以外にも、実際の小学校教員が行った道徳の授業を映像で見せ、指導方法や発問、児童の発言の取り上げ方や広げ方、自分ごとに引き付けるための導入の工夫、価値理解について深化させる手立てなどを学生同士でディスカッションする時間を取るなど、できる限り数多くの「授業」に触れる機会を提供するようにした。

二点目は、児童が多面的で多角的な考えに触れ、道徳的価値について深く考えることができるような発問や板書の工夫について、実際に発問を考えたり、効果的な板書を作成してみたりする活動を取り入れたことである。

(写真1)は、グループに分かれて「友の肖像画」という資料を用いて、板書を考えている様子である。学生は資料を読み、授業の展開や中心発問について、それぞれの考えを交流しながら、四つ切画用紙を黒板に見立て、効果的で児童の多様な意見を引き出し、道徳的価値について考えを深めるきっかけとなるような板書を作成した。その後、作成した板書について、グループ同士で説明をし合い、理解を深めることにつなげた。学生は短時間でグループ内での意見の擦り合わせを行い、板書を作成していく作業に楽しさを感じつつ



(写真1) グループで作成した板書の一例

も、実際の学校現場で行われている教材研究や授業づくりの研修に近い活動が行えたことや自分たちが真剣に考え、作成した板書が他のグループから高い評価を受けたことで、充実感ややりがい、授業を組み立てる楽しさやコツをつかんでいた。

三点目は、学習指導案の作成と授業案の説明会である。学習指導案は、授業の後半に作成するようにして、それまでの授業で学んだことを活かして作成するように指導した。また、教科化されたことを意識して、実際に使用されている教科書の中から、自分で資料を選び、作成することとした。学生によって、関心のある内容や道徳的価値、学年で作成することで意欲を持ち、主体的に課題に取り組めるようにした。また、指導案の形式は、教育実習を見越して、附属小学校で実習生が作成している様式を使って作成した。こうすることで、指導案の書き方についても学ぶ意識を高く持って取り組めたようであった。

指導案は作成して提出するだけにせず、授業説明や模擬授業を行う時間を取った。本授業は182名と受講者が多い為、全員が全体の前で発表することはできなかったが、グループに分かれて一人20分程度の時間を使い、導入や展開で工夫したポイントや中心発問、題材設定の理由などを説明し合うことで、互いに刺激を受けながら、よりよい道徳授業の在り方について理解を深めていく様子が見てとれた。学生の中には役割演技をするための道具を作成し、それを使って模擬授業を行ったり、ワークシートや板書計画を作成してきて、それを見せながら説明を行ったり様子が多く見られた（写真2）。



（写真2）作成した指導案を説明する様子

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業の特徴でもある実地研修講師による

講義は、毎年、学生から高い評価を得ている内容の一つである。愛媛県で実際に道徳授業を実践し、学校内外の道徳教育推進について現在進行形で行っている小中学校の校長から直接実践的な内容が学べることは、学生にとって地域から学び、地域の学校の実際の様子を知ることができるまたとない機会となっているからに他ならない。今年度も3名の先生方に講師として来ていただき、道徳授業に必要な知識や具体的な指導方法を教えていただくことができた（写真3、4）。



（写真3）小学校長による講義と模擬授業



（写真4）元中学校長による講義と模擬授業

地元の愛媛県で長年、教師として子どもと関わり、道徳教育に熱い思いを持って実践してこられた先生方から直接講義を受けるだけでなく、実際に模擬授業を披露していただき、学生が児童・生徒役になって、体験的に学ぶことで、道徳授業の楽しさや奥深さを感じるだけでなく、愛媛教育の質の高さを学生に還元することにもつながっており、地域の良さを感じながら、愛媛で教師になりたいと思わせる効果も出ているように思う。

課題としては、今年度は大学での講義が初めてだったため、不安を抱え、試しながらの授業が多く、学生にとって質の高い学びに十分繋げられなかった点が挙げられる。授業全体を通して、内容や目的、到達点等について見通しが明確で、学生自身が主体的に学び、自主的に課題を行っていけるような授業構成や内容を目指して、改善を加えていきたい。